

NITSオンライン研修報告

12/1-3学校教育の情報化指導者養成研修

文責：水野 雄介

<研修全体を通して>

①臨時休校中の取り組みは、全国的に見て先進的だった。

臨時休校中に学校で協力して行ったことは、全国的に見ても先進的な取り組みとして、大学の先生に紹介されてもおかしくないぐらいだった。素早いzoomの導入、zoomの朝の会・学習会、動画の配信などなど。

②一人一台タブレットをどのように授業になじませていくか。

(早くWi-Fiが設置されることが前提ですが) まずは、一人一台配布して使ってみて、感想を持ち寄って検証していく。最初は使用方法について共有する。その後、授業でどう使ったか共有する。恵那市ではまだまだこれからの導入段階なので、令和3年度の前期でiPadをなじませていく。後期で、授業の中でどのような活用ができるのかを細分化していく。

- | | | |
|----------|--------------|------------------|
| →活用のレベル1 | 教師が活用する段階 | 教師が生徒に提示する。 |
| 活用のレベル2 | 教師と生徒が活用する段階 | 教師が生徒個別に配信し活動する。 |
| 活用のレベル3 | 生徒同士で活用する段階 | 生徒がペア・グループで議論する。 |

- | | | |
|---------|-----------|-------------------|
| →活用の場面1 | 一斉学習で活用する | 提示する。 |
| 活用の場面2 | 個別学習で活用する | ドリル。調べる。つくる。 |
| 活用の場面3 | 協働学習で活用する | 話し合う。発表しあう。練り上げる。 |

③一人一台はクラウドが前提の施策。クラウドのよさ、悪さを理解していく。

→職員間でのGoogleclassroomなどの導入、ロイロノート研修、Googleアカウントをもっているからでできることをして業務の改善を。職員会資料をクラウド配布を令和3年度スタートまでに導入していく。生徒アンケート、保護者アンケート、職員アンケートはグーグルフォームを使う。
→教師自身がクラウドの便利さ(可能性)と困難さ(限界)を知った上で、生徒への活用のさせ方が変わってくる。

④一人一台配布タブレットによるトラブルを恐れない。

トラブルがあったら、生徒と一緒に今後どうしていくか考えていく。職員で考えていく。そうしたスタンスで、一人一台タブレットでの授業を考えていく。
→子どもたちが大人になったときにはもっと当たり前にコンピュータが存在する時代になる。子どもたちが大人になるまでに、学校で指導していく。隔月ぐらいの全校的な情報モラル道德の実施、教師のICTトラブル研修の実施、トラブルシューティングの作成・学校間での共有する。

⑤情報モラル教育について

大切なことは「①「自覚」を促す②「曖昧」を消す③「自律」を促す」の3つ。「自覚」を促すための、カードを使った授業の実践事例紹介をしていきたい。人によって「嫌なことor嫌でないこと」、「使いすぎor使いすぎでない」、「不適切or不適切でない」の内容の認識の差、判断の差を意識させることができる授業を展開して、自分ごととして考えられるようにしていきたい。年々、スマホ(LINE)トラブルが急増している。保護者も家庭でのルールづくりに苦心しているので、「具体的に」「守れなさそうになったらどうするか」ということについて考えられるように提案していきたい。子供達の「自律」を促すきっかけになるように、家庭と学校で情報モラル教育を進めていきたい。

<細かな学びと研修で紹介された内容のリンク先>

- ・ICT活用が求められている理由の一つに、今の子どもたちの現状はPISA2018の結果がある
ここで言われる「読解力」の捉えをきちんと理解する。

新しい学力テストの形式をきちんと理解する。

資料→ [OECD 生徒の学習到達度調査2018年調査（PISA2018）のポイント
～ 2018 年調査問題例～](#)

- ・今後求められる「情報活用能力」という概念について

資料→ [【研究員レポート】意外と知らない"情報活用能力"（第1回）](#)

資料→ [【情報活用能力の体系表例（IE-Schoolにおける指導計画を基にステップ別に整理したもの）】（3）](#)

資料→ [情報活用能力育成のために](#)

資料→ [情報活用能力を育成するためのカリキュラム・マネジメントの在り方と授業デザイン](#)

- ・情報モラル教育では「自覚」と「自律」が求められる。

資料→ [LINEワークショップ「楽しいコミュニケーション」を考えよう！カード版第2弾
<https://linecorp.com/ja/safety/parents#block5>](#)

資料→ [情報モラル教育教材「SNSノート（情報モラル編）」を全国の学校での授業活用を目的に開発、無償提供](#)

- ・特別支援学級においては別の情報モラル教育が必要になるだろう。

資料→ [特別支援教育向け情報モラル教材を公開
静岡大学教育学部 塩田真吾 研究室](#)

- ・文部科学省も情報モラル教育の資料をたくさんあげているから活用できそう。

資料→ [情報化社会の新たな問題を考えるための教材＜児童生徒向けの動画教材、教員向けの指導手引き＞](#)

- ・タブレットを導入するまでに情報モラルの状況調査が必要だ。

資料→ [情報モラル診断サービス | 2万人が受検！学校向け情報モラル教育](#)

- ・ICTをどのように授業に活用していくかを考える学習活動カードについて

総合的な学習の時間と、ICT活用の親和性は高い。学習の見通しを立てるために、学習活動カードを使って、カリキュラムを構成する視点となるので、印刷して活用してみたい。これは、生徒に対しても。教員に対しても。

資料→ [情報活用型プロジェクト学習 | つくろう！情報活用型授業](#)

- ・プログラミング教育についての動向。

プログラミング的思考は実際に動かしながら身に付けるものである。

・恵那市では、プログラミング教育についての情報が入ってきていない。何を、どこまでやっているのか、そうしたことの情報交流が必要であると感じる。

資料→ [小学校プログラミング教育の手引（第二版）](#)

資料→ [【研究員レポート】意外と知らない"小学校プログラミング教育"（1）](#)

- ・小学生が行うプログラム教育のゲーム体験。これならば、中学生も遊べそう。

資料→ [Google Blocklyは子どものプログラミング学習に役立つ | 探究型プログラミング教室アルスクールのブログ](#)

- ・先行事例としてのICT策定計画

小牧市の先行の事例

資料→ [小牧市学校教育ICT推進計画](#)

[目指すのは、「時代を切り拓くこども」の育成](#)

[小牧市学校教育ICT推進計画\(H31.2策定\)及びICT教育のモデル校事業\(R1～\) / 小牧市](#)

- ・人的な環境が課題になっている。恵那市は大丈夫だろうか？

・今後、外部支援員が必要になる。支援体制はどうなっているのか？

- ・やっぱり校務改善にはGoogleだろう

資料→ [G Suiteって何？Gmailとの違いは？ビジネスツール「G Suite」導入のメリット4選](#)

資料→ [【先生向け】オンライン学習 | Google Classroomではどんなことができる？](#)